

## 4月のテキゴト

4月11日(日) 10:00～12:00 令和3年度第1回いずみ自然塾 「石坂の森」

石坂の森の維持管理について学ぶ

### 1. テーマ・開催場所等

#### 1) テーマ

石坂の森の維持管理

#### 2) 開催場所

今年度第1回目のいずみ自然塾は、新型コロナウイルスの感染予防の為、集団行動を避け「環境学館いずみの学習室」での開催となりました。

#### 3) 講師

講師は、「NPO 石坂の森プロジェクト」代表理事鈴木伸氏です。

#### 4) 受講者

受講したのは、自然観察会のメンバー15名です。ボランティアのメンバーも参加しました。



鈴木伸 講師

### 2. 説明の内容

プロジェクトで、活動を紹介していただきました。

石坂の森の今・あした～環境保全業務から～

理念・目的

はじめに

#### 第一章 歴史的背景

- ・「石坂の森」の場所（地図）
- ・「石坂の森」とはどんな森  
「鳩山の歴史・鳩山の地誌」によると・・・
- ・石坂村は村のほとんどが山！  
周辺の村の入会地だった
- ・鳩山町と坂戸市含めての場所（地図）

#### 第二章 里山

- ・里山の内容
- ・農業従事者が手を入れることにより、里山の豊さは保たれてきた
- ・昭和30年代にエネルギー(生活)革命が
- ・化学肥料の普及



石坂の森

鳩山町

- ・ 高度経済成長により開発ブーム到来 石坂の森周辺の変遷
- ・ 荒れだした里山
- ・ 里山の価値の見直しが始まった
- ・ 担い手の役目

### 第三章 これまでの経緯

- ・ 開発から取り残された森
- ・ 町が石坂の森を取得(町有地化)
- ・ 鳩山町との連携
- ・ 国・県との連携
- ・ NPO の成果 1 動植物調査(毎月定期実施)
- ・ NPO の成果 2 特別動植物調査(毎年)
- ・ NPO の成果 3 教育・普及活動
- ・ NPO の成果 4 石坂の森 利用者動向調査
- ・ NPO の成果 5 表彰



講座風景

### 第四章 あらたな展開 そして未来へ!

- ・ さらに強化を願うもの ~NPO の持つノウハウ、機動力を生かす~
  - (1) 東松山市民の森との連携事業強化
  - (2) 里山保全体験学習の指導充実
- ・ これからの石坂の森
- ・ NPO 会員の高齢化→迫られる世代交代

## 3. 説明内容のポイント紹介 (筆者の判断で記載)

### 1) 理念・目的

- ・ 活動の柱
  - 住民が安全・安心で憩える森づくり
  - 生物多様性を育む森づくり
- ・ スローガン
  - 後世に伝えよう 人と自然が共生する水と緑の里山

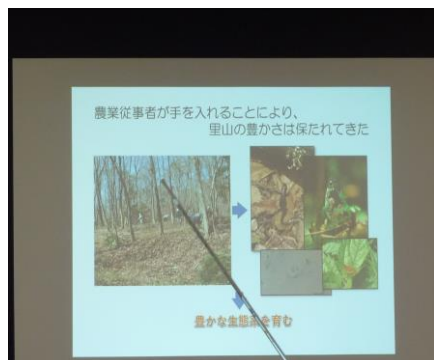
### 2) 歴史的背景

- ・ 江戸時代は、石坂村は、石坂村及び入西 17 カ村の入会地(共有地)として秣場(まぐさば)の役割を担った。
- ・ 明治時代になって地租改正で、土地の所有権を明確にして、農民に払い下げられた。
- ・ 民有林になってから雑木が生えてきて、冬季の薪炭林の切り出し、落ち葉は農家のたい肥として利用された。
- ・ 石坂村の土地利用の原型は、そのままの形で現代に受け継がれていくのである。

### 3) 里山

- ・ 原生自然を切り開き、繰り返し利用してきた自然の状態を総称して「里山」という。
- ・ 農業従事者が手を入れることにより、里山の豊かさは保たれてきた。

- ・「昭和30年代にエネルギー革命」、「化学肥料が普及」、「高度経済成長による開発ブーム到来」で、里山が荒れだした。



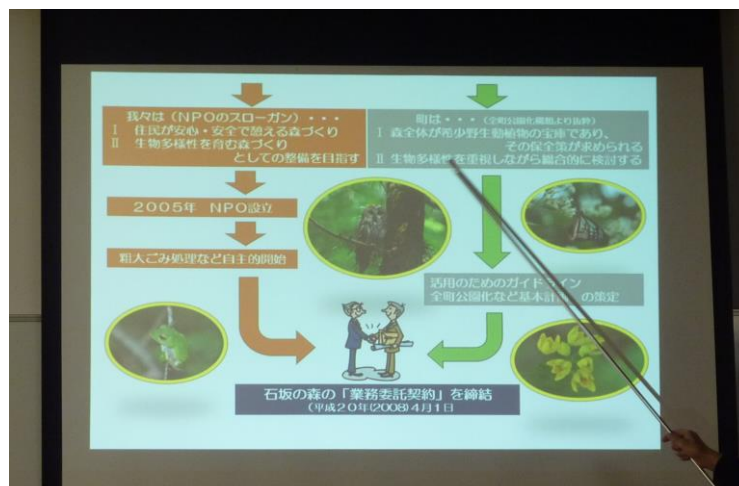
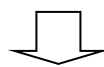
豊かさが保たれていた里山



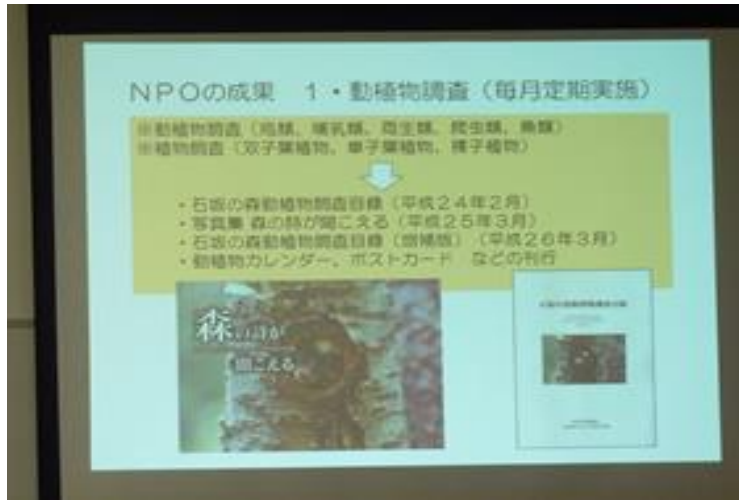
荒れだした里山

#### 4) これまでの経緯

##### ① 鳩山町との連携



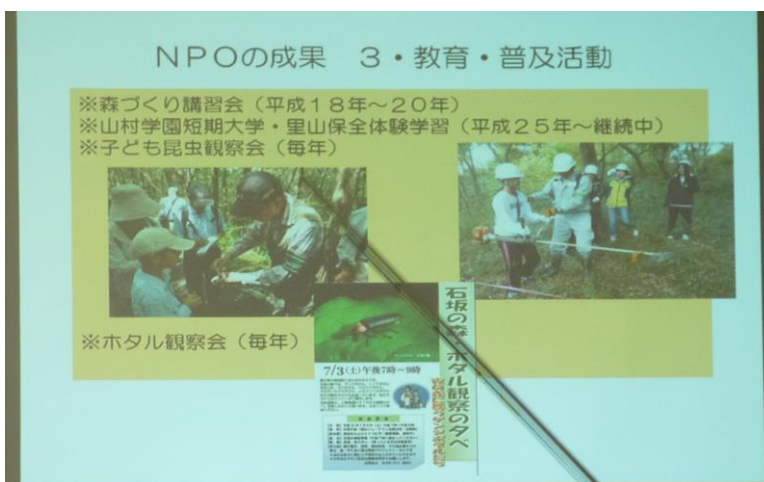
## ② NPOの成果



動植物調査

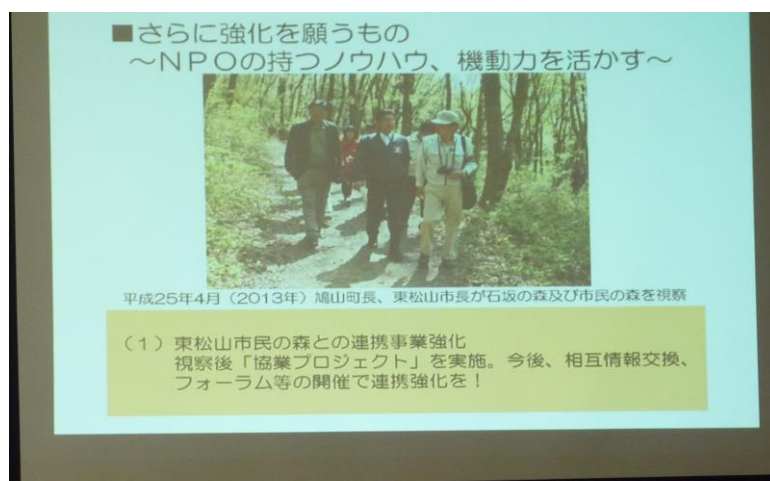


特別動植物調査

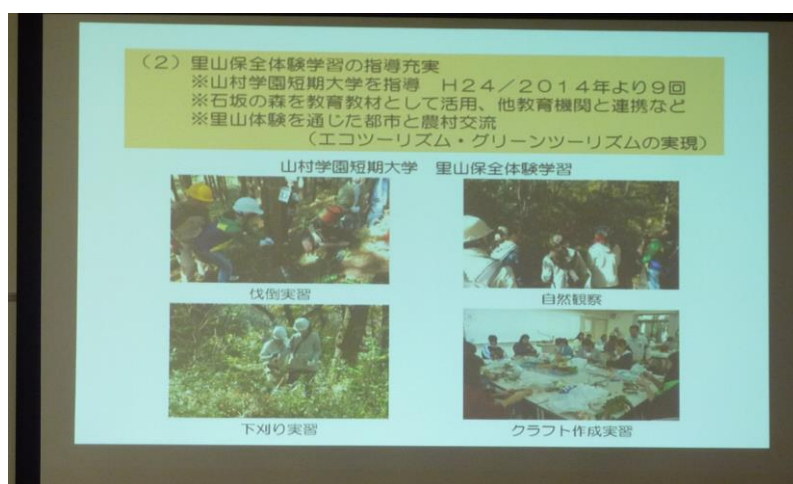


教育・普及活動

## 5) あらたな展開 そして未来へ



### 東松山市民の森との連携事業強



### 里山保全体験学習の指導充

## 4. 受講者からの質問(Q)と回答(A)

鈴木講師からの説明が終わった後、受講者からの質問を受けてもらいました。

Q1. 犬との散歩が大好きです。森づくりを支える会のようなものはありますか？

また、一般の人向けの講習会をやっていますか？

→A1. 以前は所沢で講習会を行っていました。

今はメンバーが固定しているので、特に講習会は開催していません。

もしよろしければ、いつでも来てもらって一緒に活動してみませんか？

連絡してもらえば受入れます。



Q2. 35年間野鳥の会に参加しています。その間に増えた鳥や、減った鳥は？

→A2. ノスリやトビは、今までいなかったのにいるようになりました。

メジロや、外来種のガビチョウも増えました。今までいたコサギがいなくなりました。

ホオジロは少なくなりました。カワセミやウグイスは今までどおりいます。

Q3. 貴重な動植物や、絶滅危惧種の動植物で、どのようなものが生息していますか？

→A3. 昆虫類でいろいろいます。また、ホトケドジョウやサンショウウオもいます。

ランもありますが、保全するかどうするかによって対応も違ってきます。

Q4. 「熊井の森」の活動との関連は？

→A4. 特に連携して活動はしていませんが、情報交換はしています。

ゴルフ場の建設が中止になったとか、太陽光発電を検討しているとか、オオタカが増えているといった情報を聞いています。

Q5. 歩いていて気になったのですが、秋のキノコが少なくなったように感じますが？

→A5. 特に少なくなるような取組みはしていません。

歩いていて、それなりにキノコが生えているのが観察できます。

Q6. 土地を太陽光発電に活用したいという話をよく聞きますが、どう思われますか？

→A6. 地権者としては、「土地を活用したい」、また「自然を守るべきという意見もあるし」、難しい問題ですね。地権者からは、土地を太陽光発電に活用したが、設置後予想以上に経費がかかるという話も聞きます。

Q7. 今後の課題として、メンバーの高齢化の問題があるとのことですが、どのような「新規メンバーを増やす取組み」をされていますか？

→A7. メンバーを増やす取組みをしていないわけではないが、何をやって集まらない・・・というのが現状です。自然保護の活動はやはり、行政の方と一緒に進めるのが一番じゃないですか。行政の方に理解していただく為には、長年の経験からですが「公益性」ということで説明するのがいいと思います。

## 5. 最後に

鈴木講師の長年の取組みを基とした、熱気ある講座でした。

自然を守っていきたいとの想いが伝わってきました。

記：KI